日本遺族通信
令和8年5月15日
第905号

一般財団法人日本遺族会
〒102-8246 東京都千代田区九段南一丁目六番五号 九段会館テラス四階
電話 03－3261－5521
振替 00160-6-25389
編集発行人 重井 敦
毎月1回15日発行
定価 1部130円（税込）

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

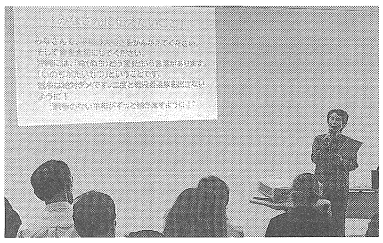
昭和100年企画

朗読劇と事後学習座談会開催
全国でも今夏に向けて

日本遺族会は昭和100年企画として全国47都道府県で「昭和の日」関連イベントを開催する。本部は4月29日（水・祝）に朗読劇と事後学習座談会を実施。当日は他7支部で朗読劇等の記念企画が開催され、遺族会が取組む記憶の継承「語り部」事業の重要性が大いに報道された。内閣府のSNSにアップされるなど注目を集めた様子を伝えたい。



首都圏の遺児・次世代による朗読劇
＝4月29日、九段会館テラスで



劇に込めた思いを語る佐賀県遺族会西田富子会長
＝4月29日、九段会館テラスで

令和8年に昭和元年から起算して満100年を迎えることから、国は官民をあげた「昭和100年施策」に取組んでいる。主な施策3つの1つ「昭和を顧み、学び、未来を切り拓いていく施策」の取組例一覧に、語り部事業が取り上げられている。

そこで、47都道府県で「昭和の日」関連イベントを提案し、8月にかけて全国で開催される予定である。第一弾として4月29日昭和の日に本部は朗読劇と振り返り事後学習座談会を開催した。

劇は語り部事業に戸惑う青年部と共に活動できるものとして佐賀県で考案され、当初県内で遺児・次世代により上演されていた。劇を視聴した本部は普及したいと昨年の語り部全国大会、ブロック語り部大会で各地の協力を得て上演。同時に学校での上演を目指し、上演後に内容を振り返り学ぶ「事後学習シート」を考案。徐々に全国に広がり、現在体験者、次世代、児童生徒により上演され、学校でも普及し始めている。

当日は首都圏の遺児・次世代の協力を得て上演。父親役に埼玉県鳩山町遺族会相談役・木下路也氏（遺児）、母親役に茨城県遺族連合会常務理事・吉澤登志江氏（遺児）、長男利勝役に神奈川県遺族会青年部・有泉圭吾氏（孫）、長男の嫁文子役に千葉県遺族会事務局長・星野咲代氏（孫）、妹の幸子役に神奈川県遺族会青年部・山﨑充代氏（孫）、ナレーター役に東京都遺族連合会青年部副部長・山中理恵子氏（孫）の思いが込められたセリフに会場は静まり返った。

上演後、制作者である西田富子佐賀県遺族会長より解説がなされた。

冒頭、母の服を着て、父母に届くように願いを込めてきたと語った西田氏は、1カ月の結婚生活後、出征、ミャンマーで戦死された父と母を思い制作したと明かした。僅かな結婚生活で託された命のバトン、その尊さを伝えたいと書き上げた。学校講話も含め佐賀県下に広がり、遺族会の活動が広く認められ、県庁が「平和への想いを未来につなぐ事業」を創設。今後5カ年で遺族会の記憶継承事業を補助する。2月には第1弾として中高生による遺構視察と朗読劇、座談会が実施され、参加した生徒から朗読劇への参加が疑似体験となり、より理解が深まったとの感想が紹介された。

会場には宮城県から高知県まで全国から体験者、次世代、生徒が参集。朗読劇を見て、振り返ることで時代背景、苦しい家族の思いに触れた。自宅にある実物（千人針、戦地からの手紙）を見せることも児童生徒の理解を促すなど、活発な意見交換がなされた。

当日は7支部（秋田県、福井県、新潟県、鳥取県、山口県、徳島県、大分県）でも記念企画が開催され、テレビ、新聞で大きく取り上げられた。

次回の定期講話会は6月13日ミャンマー遺児慰霊友好親善事業報告を開催予定。沢山の参加をお待ちしている。

令和7年度 平和の語り部事業実施報告

令和7年度の平和の語り部事業の実績について報告したい。

令和7年度全国での実施回数は1981回、うち学校等（学童クラブ・公民館等での児童・生徒向け企画を含む）での実施回数が808回を数え、聴講者数は13万7796人となった。特筆すべきは、学校等での実施が前年度比4倍増となったことである。要因は大きく2つと推測される。

○都道府県への通知

一つ目は本会による学校での語り部の活用の要望を受けた厚生労働省、文部科学省より其々都道府県福祉担当、教育委員会等への通知が発出されたことが大きな後押しとなった。終戦80年の節目であったことも利用に繋がったことは言うまでもない。

○遺族会の語り部の貴重性

そしてもう一つの大きな要因は遺族会の語り部の貴重性にあると考える。

①体験者の記憶

戦後生まれが国民の9割となる今日、体験者である遺族の記憶そのものが貴重であり、生きた教科書だということ。

②次世代と共に

永続的な共生を目指し、次世代と共に活動していることが記憶の継承に繋がっていること。

③多世代間の学び

何より講話＋対話＋体験型など多様な形態が、体験者、次世代、児童・生徒其々が共に学びあう多世代間による学びに繋がっている。年度中盤から少人数での車座の講話＋座談会の希望が増えたことが物語っている。より伝わる内容を模索した各支部の語り部、支えた事務局に感謝したい。

令和8年度は更なる依頼が見込まれ、本部は全国で1000回を目標に掲げる。多くのニーズに応えるため本部・支部とも語り部の育成に向け各種企画を実施する。

本会関係者に栄えある受章
春の叙勲

政府は、令和8年春の叙勲及び褒章受章者を発表した。栄誉に輝いた本会関係者は、次の方々である。

▼旭日単光章
大場 盛子氏（85歳）
日本遺族会評議員、福島県遺族会副会長

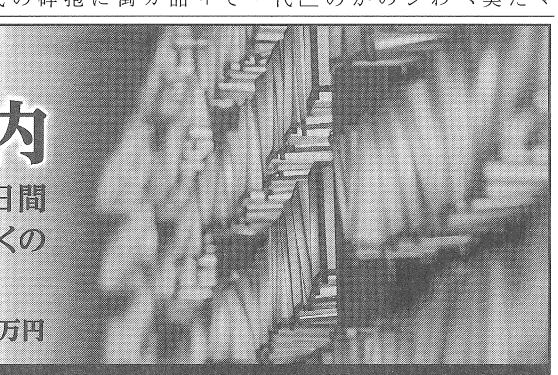
▼旭日単光章
宮内 欣也氏（85歳）
日本遺族会元評議員、福井県遺族連合会前会長

▼旭日単光章
武山 茂活氏（90歳）
日本遺族会元理事、岐阜県遺族会前会長

▼旭日単光章
服部 惠伊子氏（81歳）
和歌山県遺族連合会副会長兼女性部長

声なき声

反戦をテーマに創りだされた芸術作品は美術、音楽、文学、映像と多岐にわたるが、そのメッセージ性を直接視覚に訴えるのは絵画ではないだろうか▼ピカソのスペイン内戦の犠牲を描いた「ゲルニカ」が最も象徴的だが、現代アートではパレスチナ・ガザ地区の壁に描かれているストリートアーティストのバンクシーの作品もそうだ▼昭和17年のガダルカナル島では、圧倒的な兵力を要する敵軍に対し、日本軍は銃剣を抱えて斬り込んでいく玉砕戦法を展開した▼都内の竹橋にある東京国立近代美術館には、この白兵戦を描いた藤田嗣治の油彩画「血戦ガダルカナル」が展示されている。作品が制作されたのは昭和19年の戦時中なので、正確には反戦画ではなく、戦争画である。当時は軍部の要請によって多くの画家が戦意高揚を目的とした戦争画を描いたようだが、藤田もその一人だったのだろう▼しかし、この「血戦ガダルカナル」は、敵味方が入り乱れて殺し合う地獄絵図であり、戦場という極限状態で命を落としていった人間の圧倒的な絶望が心に迫ってきて、戦意高揚という枠には到底収まらない。紛れもなく反戦画といえる▼戦争というものの本質を捉え、戦時中に描かれた画を直視し、戦場で命を落とした方たちの無念を忘れないよう、自らを戒めていきたい。（S）

靖國神社
みたままつり献灯のご案内
靖國神社みたままつりが、7月13日から16日までの4日間賑々しく執り行われます。ご遺族・崇敬者の方々など、多くの皆様の献灯をお願いいたします。
献灯初穂料 ○小型献灯 1灯につき5千円 ○大型献灯 1灯につき2万円

［お申し込み・お問い合わせ］靖國神社務所 献灯係 〒102-8246 東京都千代田区九段北 3-1-1 電話：03-3261-8326（代表） FAX：03-3261-8320（直通）

靖国神社

春季例大祭を斎行
天皇陛下より御幣帛が奉納

靖国神社で重要な祭典の一つである春季例大祭が4月21日から23日までの3日間で斎行された。22日の当日祭には天皇陛下より勅使が差し遣わされ、陛下からの供え物（幣帛）が奉られ、御祭文が奏上された。また、大祭にあたり、高市早苗内閣総理大臣、衆・参両議院議長、水落敏栄日本遺族会会長が「真榊」を奉納した。

靖国神社春季例大祭は4月21日、当日祭に先立って、神職、そして祭儀に用いられる諸具すべてを祓い清める「清祓」で始まり、翌22日には「当日祭」が斎行された。

22日午前10時、崇敬者総代など約500人が参列し、大塚海夫宮司が祝詞を奏上した。

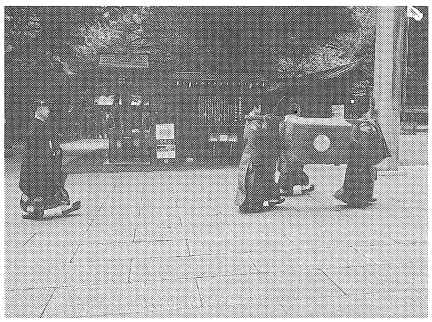
10時30分頃には、天皇陛下より遣わされた勅使・十時和孝掌典が随員を従えて本殿に昇殿。天皇陛下よりの幣帛を大塚宮司が神前に奉り、勅使が御祭文を奉上し、玉串を奉奠して拝礼した。

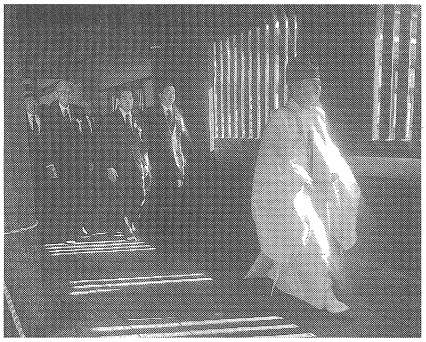
勅使退下後、国学院大学混声合唱団が「鎮魂頌」、「靖国神社の歌」を奉唱。大塚宮司に続き、水落本会会長、神社本庁総統理（代理・小佐野正史常務理事）、泉和慶全国護国神社会会長、中山恭子靖国神社崇敬奉賛会会長らが本殿に進み、玉串を奉り拝礼した。

城内実経済再生大臣、自民党の有村治子総務会長、小林鷹之政調会長、彬子女王殿下が当日祭に、翌日には瑤子女王殿下が参拝された。

高市総理、衆・参議長、上野賢一郎厚生労働大臣は例大祭に合わせ「真榊」を奉納した。

大祭期間中の高市総理の参拝は見送られ、有村総務会長が総理に代わって、党総裁としての玉串料を奉納した。


本殿に参進する天皇陛下から遣わされた勅使＝4月22日、靖国神社で


昇殿参拝に向かう「みんなで靖国神社を参拝する国会議員の会」＝4月22日、靖国神社で

靖国神社に143人が参拝
みんなで参拝国会議員の会

超党派の議員連盟「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」は、4月22日午前、靖国神社春季例大祭に合わせ集団参拝した。参拝したのは、自由民主党、日本維新の会、国民民主党、参政党などの衆・参国会議員143人（本人126人、代理17人）で、昨年秋の例大祭の参拝者数90人から大きく増加した。これは、自民党が先の衆議院選挙で圧勝したことで、同議連への加入者が増えたことが要因と考えられる。

同議連会長の逢沢一郎衆議院議員は参拝後の記者会見で、本会が推進する平和の語り部事業に触れ、「戦争の記憶が風化されないよう、戦争体験者が自身のことを戦争を知らない児童、生徒に直接語っていただくことは大切であり、議連としても事業をしっかりとサポートしたい」と述べた。

また、今年2月の第51回衆院選で初当選した本会青年部副部長の西山尚利議員（福島県遺族会青年部長）は、国会議員として初めての参拝を終えて、「改めて日本を守っていただいているご英霊に感謝の念をお伝えし、『戦争はしない、平和な社会を築いていく』という決意を新たにした」と語った。

みんなで参拝 衆・参国会議員

令和8年4月22日、「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」で参拝した126人の衆・参議員（本人）は次のとおり。（党派別、敬称略 太字は拡大一心会）※戦没者の遺児・孫等

▼衆議院

【自由民主党】逢沢一郎、秋葉賢也、浅田眞澄美、青山周平、石井拓、石川昭政、石橋林太郎、石原正敬、井上信治、井林辰憲、石坂太、稲葉大輔、上原正裕、上野宏史、衛藤博昭、江藤拓、大串正樹、小里泰弘、尾花撰仁、金澤結衣、川崎ひでと、河野正美、加藤勝信、加藤大博、加藤竜祥、川松真一朗、熊田裕通、栗原渉、黒崎祐一、こうらい啓一郎、坂本竜太郎、繁本護、新谷正義、鈴木淳司、鈴木貴子、関芳弘、瀬戸隆一、高鳥修一、高橋祐介、田村憲久、俵田祐児、髙木啓、田畑裕明、土田慎、辻秀樹、津島淳、とかしきなおみ、冨樫博之、中川こういち、長澤興祐、中谷真一、中野英幸、西田昭二、仁木博文、西山尚利、根本幸典、長谷川淳二、東田淳平、平沼正二郎、藤田誠、古井康介、藤沢忠盛、古川康、古屋圭司、細田健一、堀内詔子、宮下一郎、三ツ林裕巳、村木汀、武藤容治、簗和生、山田基靖、山本左近、山本裕三、保岡宏武、山下史守朗、山田美樹、山本大地、吉村悠、米内紘正、若林健太、渡辺勝幸

【日本維新の会】東徹、一谷勇一郎、奥下剛光、黒田征樹、原山大亮、三木圭恵

【国民民主党】高沢一基、鍋島勢理、西岡義高、向山好一、村岡敏英

【参政党】工藤聖子、島村かおる、豊田真由子、吉川里奈、和田政宗

【無所属】河村たかし

▼参議院

【自由民主党】有村治子、磯崎仁彦、いんどう周作、江島潔、加藤明良、鈴木宗男、滝波宏文、中曽根弘文、中西祐介、西田昌司、野村哲郎、馬場成志、福山守、舞立昇治、松村祥史、宮本周司、山谷えり子、山本佐知子

【日本維新の会】青島健太、石井苗子、岡崎太佐々木りえ、石平

【参政党】梅村みずほ、神谷宗幣、松田学

【無所属】齊藤健一郎

平和の語り部 大幅拡充強化
令和8年度政府予算成立

4月7日、令和8年度政府予算が参議院本会議で成立した。一般会計の総額は過去最大の122・3兆円となった。衆議院解散による審議の遅れ、参議院における与党が過半数に届かない「ねじれ国会」により、平成27年以来11年ぶりに予算成立が年度をまたぐことになった。

本会関係では、最重点要望事項であった「平和の語り部事業」に令和7年度補正・8年度本予算をあわせ約2・6億円が計上され、令和7年度予算からは約2・6倍の大幅増額となった。

令和8年度は、予算に見合った語り部の実施回数を全国で2500回としており、特に学校から依頼された語り部講話を確実に実施することが求められる。

本会事業 参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報は「個人情報保護法」の定めに則り、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

この他、戦没者遺骨収集、民間建立慰霊碑の移設、昭和館事業等、本会の要望事項は概ね予算化された。

語り部事業化推進委員会 ブロックアドバイザーを統合
新ブロックアドバイザーを委嘱へ

令和6年度の語り部事業立ち上げに際し、本部提案の事業計画等に助言する本部語り部事業化推進委員会（以後、推進委員会）と各支部へ助言をするブロックアドバイザーを委嘱した。

令和8年3月末に2年の任期が終了となり、運用方法が類似していることから統合し、新たに委嘱した。

◎新平和の語り部ブロックアドバイザー

（目的）

全国で語り部事業を推進するため、活発な支部を代表し各地域の事情に合わせた実施方法等の助言を行う。より実践的な（講話型、対話型、体験型）の内容の指導、育成に努める。

【委員長】

◎第1B　安齋満氏（本会副会長、福島県遺族会会長　遺児）

◎第2B　福居二夫氏（埼玉県遺族連合会副会長）

【遺児3人】

◎第5B　西田富子氏（本会理事、佐賀県遺族会会長兼女性部長）

◎第2B　大石功氏（静岡県遺族会顧問）

◎第3B　今堀治夫氏（滋賀県遺族会顧問）

【女性部（遺児）3人】

◎第4B　濵順子氏（本会女性部副部長、徳島県遺族会副会長兼女性部長）

◎第5B　田中玉喜氏（本会常務理事・女性部長、福岡県遺族連合会副会長兼女性部長）

【青年部（戦没者の孫）3人】

◎第3B　荒堀修一氏（兵庫県遺族会副会長兼青年部長）

◎第4B　黒川真介氏（高知県遺族会青年部長）

◎第5B　山下義朗氏（熊本県遺族連合会副理事長兼青年部長）

【事務局長3人】

◎第1B　田口昭益氏（本会事務局長協議会幹事、秋田県遺族連合会）

◎第2B　久保秀義氏（東京都遺族連合会）

◎第5B　鎌田伸次氏（宮崎県遺族連合会）

日本遺族通信 年間定期購読のお知らせ

毎月、お手元までお届けする年間定期購読です。
戦没者の英霊顕彰（遺骨収集、慰霊友好、慰霊巡拝）、遺族の処遇改善等々の遺族関係の情報を掲載しておりますので、是非、この機会にお申し込みください。
次世代を担う青年部（孫・ひ孫）の皆様も是非お申し込みを。

年間購読料／1,560円（1年間 12回　税金・送料込）
お申込み
日本遺族会事務局　☎03-3261-5521

第14回語り部定期講話会

「泰緬鉄道」から考えるこれからの慰霊と継承活動

戦争体験者の遺族と次世代が共に記憶の伝承に取組む本部主催第14回定期講話会のテーマは「泰緬鉄道」。今回より昭和100年企画として更に多様なテーマを取上げるべく初めて外部講師を招いた。本部はミャンマー遺児友好親善事業を報告。報道機関による取材を受けた。他団体との交流により新たな視点が生まれた講話会を伝えたい。



初の外部講師を招き、泰緬鉄道建設の歴史や慰霊の講話を聴講＝4月11日、九段会館テラスで

4月11日に開催された第14回定期講話会では冒頭本部よりミャンマー慰霊友好親善訪問団の報告。令和7年度で惜しまれながら終了した本事業の意義と、訪問をきっかけに寄贈した小学校の現状を伝えた。その上で「慰霊に終わりはない」とする遺児の思いと次世代への記憶の継承、国際親善を継続したいとの参加者の思いを伝え、6月の定期講話会で報告会をすることが明かされた。

次に、機関車C563 1号保存会事務局長の林紀孝氏が「泰緬鉄道」をテーマに講話した。林氏は靖国神社の神職として長年遺族会や戦友会との交流を重ね、その中で出会った戦友より泰緬鉄道を走行していた機関車C5631号保存会を引継ぎ、平成19年から同会事務局長を務めている。

泰緬鉄道は、旧日本軍がビルマ前線への物資補給路として建設し、総延長415キロ。1年3カ月の突貫工事で、連合軍捕虜ら10万人以上が犠牲になったとされ、米映画「戦場にかける橋」で一躍有名となった場所である。

講話では、C5631号は日本で製造され、当初石川県七尾機関区へ配属され、昭和16年12月開戦に伴いタイへ軍事供出。18年泰緬鉄道開通式の記念車両となり、戦後タイ国鉄へ編入され、52年に廃車となったが戦友会がタイ国鉄より購入し、54年靖国神社へ奉納されたことが語られ、同鉄道建設の経緯、現状が説明された。

林氏は、多くの犠牲の上に建設された鉄道であるが、戦時中に建設時に犠牲となった連合国軍捕虜、現地人、日本兵、全ての犠牲者を祀る慰霊碑が建立され慰霊祭が行われていたこと、そして戦後も戦友会がタイ人、捕虜であった英軍人等を招き慰霊祭を続けていることを明かした。続けて「戦友の志を受継ぎ、慰霊祭を続け、戦争の記憶を継承し、平和を求める活動を続けたい」と語った。

座談会では講話の感想、旧戦域での慰霊、遺骨収集について次世代が聞き取った。主な意見は次の通り。

・テーマが素晴らしかった。もっと教えてほしい。
・すべての犠牲者の慰霊を続ける機関車保存会、タイ日本人会に感謝。
・平和への意識の低下に危惧。兵器のない戦争が世界に広がり、止める術は次世代への継承だけ。
・体験者の話を初めて聞いた。直接聞ける最期の世代。重い責任を感じた。
・次世代がいかに遺児の記憶を継承できるか。
・意識を共有するにはどうすればいいか。

講師を務めた林氏は「思いを共有できる仲間を増やすことが大切」と述べ、参加した同会員の報道関係者より「もっと真実を伝えたい。故に歴史を学び続けたい」と発言が聞かれた。今後も志を同じくする他団体との交流を深めたい。

次回は6月13日ミャンマー遺児慰霊友好親善事業報告を開催予定。

沢山の参加をお待ちしている。



報道関係者も参加した体験者・次世代・学生の座談会＝4月11日、九段会館テラスで

戦没者遺骨収集事業

71柱の遺骨が送還

硫黄島、マリアナ諸島から

日本戦没者遺骨収集推進協会は、硫黄島及びマリアナ諸島に戦没者遺骨収集団を派遣し、硫黄島で14柱、マリアナ諸島で57柱を送還した。千鳥ヶ淵戦没者墓苑で合同の遺骨引渡式が挙行され、長坂康正厚生労働副大臣をはじめ遺族代表、国会議員、関係団体代表等が見守る中、派遣団員から厚生労働省職員へ遺骨が引き渡された。

硫黄島

硫黄島は昨年9月の噴火により島内施設が被災して燃料パイプライン等に支障が生じていることから派遣が中断されていたが、派遣日数の短縮、人員を縮小し、3月2日から3月12日の期間で、硫黄島戦没者遺骨収集派遣（第4次）を実施し、本会から関係遺族1人が参加協力した。

派遣団は、令和7年度7月に実施した第1次遺骨収集団からの継続である現在の滑走路の北側の地表遺骨を中心に収容にあたった。団員全員がすべて手作業で地表にある土砂を丁寧に排除し、細心の注意を払って遺骨の発見に努めた結果、硫黄島中央部地表から9柱、北部地表から1柱を収容した。この他、令和7年度に安置されていた4柱を含む14柱の遺骨を送還した。



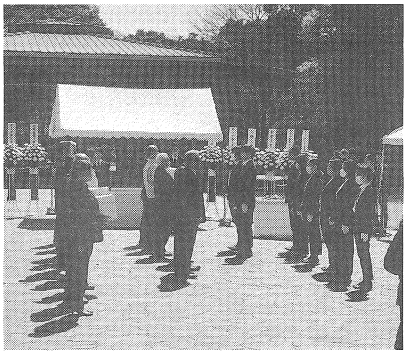
マリアナ諸島の戦没者遺骨を焼骨する団員＝3月9日、サイパン島バナデル飛行場跡で

マリアナ諸島

マリアナ諸島戦没者遺骨収集派遣は、2月24日から3月12日の期間で実施され、本会から関係遺族2人が参加協力した。

派遣団はテニアン島北部で特定した143名の集団埋葬地「テニアン第2日本人墓地」から順次発見した遺骨推定43柱を収容し、DNA鑑定用の検体を採取した。

今回の派遣では、平成30年度から令和元年度にかけてテニアン島のマルポ、カロリナス、カスティズ、マサロク地域で収容し、サイパン遺骨保管安置室で一時保管されていた遺骨で、DNA鑑定により日本兵の遺骨と判定された57柱をバナデル飛行場跡で焼骨し、戦没者の冥福を祈り追悼式を挙行して本邦へ送還した。



硫黄島及びマリアナ諸島の戦没者遺骨引渡式＝3月12日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で

ミャンマー小学校修繕募金のお礼

日本遺族会がミャンマーの現地に寄贈した小学校3校の老朽化が進んでいることから、その修繕費用を集めるために開設した「ミャンマー小学校修繕募金」にご賛同いただいた左記の方々に心よりお礼申しあげます。

賛同者名（敬称略）

石﨑弘子、ハラダアキラ、木村亜湖、中川允子、梅本潤子、三好セイコ、ナガサコテツオ（以上、4月1日から4月末日まで）

本会は引き続き現地の情報収集に努め、支援について慎重に検討し、小学校の修繕に取り掛かることにしている。

日本遺族会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申しあげます。

なお、賛同者の都道府県名については、送金方法により居住地が特定できない場合があるため、省略します。

賛同者名（敬称略）

横山則義、岡野淑子、北村禧三代、宮田喜美子、古川史、千田和子、大川勝也、古賀清治、若林甚一、井坂明弘、小森園和美、明星晋、轟木保子、尾﨑正道、廣木正勝、十二重樹、松岡俊彦、松岡和子、日野東亜子、小川勉、澁谷恵子、保木登茂子、西茂俊明、田口晃子、池田良美、増田幹男、松浦友一、松垣治子、久保廣子、谷中幸雄、西本嘉尹、山岸由紀子、梅澤弘一、西保子、安原恭子、伊藤隆義、永元義則、小川佳子、水田和正、浜崎和則、林静美、井上咲子、瀬尾好康、髙倉正達、荻野和子、石橋嘉子、山本九州男、梅本潤子、江元幾子、吉岡雄毅、濱田義則、藤澤喜八郎、仁志マサエ、成木龍美、川添和子、北村哲雄、岡本壮、重松美美子、打木昇、片山幸男、岸田秀八、柳井捷子、内田利彦、藤森龍、東川雄一（以上、4月1日から4月末日まで）

皆様からいただいた賛助金は、本会が実施している英霊顕彰、戦没者遺族の処遇改善、戦没者遺骨収集事業等のさまざまな遺族会活動に利用させていただいています。

ついて慎重に検討し、小学校の修繕に取り掛かることにしている。

日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族援護、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。

本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申しあげます。

●郵便振替
00130-2-69429

●みずほ銀行　九段支店
普通預金　0980930

※口座名は一般財団法人日本遺族会（サイン）ニホンイゾクカイ

平和の語り部研修各地で
学校講話の充実に向けて

戦没者遺族の記憶と地域の歴史を次世代と共に児童・生徒に伝える「遺族会の語り部」は全国から依頼を受け実施している。学校での講話が6年度比4倍強の約800回を数え、8年度の依頼は100校余り、1万5000人の聴講予定となっている。依頼に確実に応えるため、各地で行われる技術向上、新たな語り部の育成の研修を紹介する。

○富山県3月5日

全県下役員を対象とした語り部研修会を開催。冒頭、山本甚吾会長は、「遺族会の責任として戦争の記憶を継承するため、一致結束して活動を続けよう」と呼びかけた。

研修会は本会水澤会長の講演、本部職員の説明、体験発表の3部構成。

水澤会長は富山県遺族会の結成に奔走、土台を築かれた濱岡玉喜、永森トモエ両会長との思い出を語り、戦没者の妻の行動力は「二度と私たちのような戦没者遺族を出さない」とする強い気持ち。それこそ「平和の語り部」と語った。

その後本部担当からは、学校講話の具体的実践として、戦中戦後のくらしを伝える本部提供の資料に加え、自身の記憶を伝える方途が示された。

次に昨年の研修会で配布した自分史アンケートから魚津市遺族会中田良子女性部長が「父と母が慰問袋を通して知り合い結婚。その後出征。母に背負われ舞鶴へ慰問が最後に。戦後、生還された戦友からソロモン海域で亡くなった父の最期を聞き、以来法要に参列。50回忌で初めて直接話すことが出来た」と体験談を披露し、出征も戦死も紙きれ一枚、絶対に風化させてはいけないと結んだ。

最後に遺族、次世代、学生が共に体験し学ぶ朗読劇を上演。当日の指名にも親会・女性部・青年部から代表が参加。拍手が送られた。

閉会の挨拶に立った町村進副会長は研修会の内容を踏まえ学校講話に向け励む。増井義嗣副会長は、引き揚げ等様々なテーマを語り継いでいこうと呼びかけ閉会した。

○長崎県4月23日

全県下の女性部長会議に続き、語り部研修会を開催。同県は昨年4月の役員研修会を皮切りに秋にかけ全県下の市町校区単位で語り部研修会を開催し、自分史作成と資料収集を親会・女性部・青年部一丸となって進めてきた。同研修会にも山下裕子会長、太田正喜、堀江政武両副会長も同席。体験者と次世代の語り部が披露された。

昭和8年生まれの深堀安代長与町遺族会長は、「農家の大家族で育った戦中、空襲警報の度、庭の防空壕に逃げたこと。小学生の頃、三菱の兵器工場で勤労動員。昼休みの海でグラマンに遭遇。常に生きた心地がしなかった。原爆投下の爆風で祖父が寝たきりに。終戦後は、闇市へ幼い弟と二人、自宅で採れた果物を売りに。絶対手を離さないように必死だった」と話し、伯父夫妻の養子となった末の弟から母の逝去後「子供の頃、母に連れられ踏切に行った」と聞かされ、母の苦労と愛情を改めて感じたと伝えた。

次世代講話者の島原市の副島真紀さんは、以前から図書ボランティアとして絵本の読み聞かせに携わっており、祖母から海軍飛行兵として戦死した大叔父のことを、中国戦線から帰還した祖父から戦場の様子を聞いて育った経験から戦争に纏わる絵本と大叔父のアルバムの紹介や夏休み前に学校にアルバムを貸出して生徒に考えてもらう取組みを実施していると話した。

県事務局からは、長崎大学提供の1人の被爆者の写真を通して考えるスライド教材が示され、記憶を伝える上で写真は理解を促すため、簡単なスライド制作の協力は惜しまないとして写真提供を呼び掛けた。

増田輝子女性部長は、自分史を使って誰もが語り部になりましょうと呼びかけ幕を閉じた。



学校での体験型として朗読劇と振り返り事後学習を研修する＝3月5日、富山県で


昭和8年生まれの遺児が語り部に挑戦＝4月23日、長崎県で

令和7年度 学校での講話 語り部感想紹介

○九段中等教育学校

・戦争体験者から話を聞くことで初めて戦争の重さについて理解できた気がする。80年経った今でも痛々しい写真に涙していた体験者を見て、戦争は日本にあったこと、そして今でも心に傷を負っている人たちがいることを理解することができた。

・新聞で記事を読んだり映像で話を聞いていたけれど、直接話を聞けたことが私にとってはすごく大きなものだった。一言一言に重みがあり「絶対に戦争をしてはいけない」という気持ちを間近で強く感じた。

・この平和学習だけで出来事を終わらせるのではなく、これから自分には何が出来るかを考えていきたいと思いました。

○学習院女子中等科

・戦争を体験した方から直接話を聞ける世代は私たちの世代だけだと聞いている。たくさんの聞いたことをこれからの時代に繋げていきたい。

・教科書や映像で見たものとは全然違うと感じた。実際に体験された方の話を聞いて、戦争は遠い出来事ではないと実感させられた。この経験を通して直接話を聞くことの大切さを感じた。修学旅行でも今回の話を思い出しながら、考え学びたい。

・「お父さんと手を握ったこともないし抱かれたこともない」との言葉が印象的でした。最後に語り部の方から「お母さんとお父さんを大切にね」と言われて、今、母と父も生きていて、お腹いっぱいにご飯を食べられる生活を当たり前と思わず大切にしたいと思った。

・戦争を経験した方から話を聞けて、日本で本当に戦争があったことを実感した。

・終戦から10年ほどたってから、遺骨収集が始まったと聞き、とても遅いと感じた。またその活動が今も続いていると聞き、そんなにも海外で戦死された方がいるんだと分かりました。初めて知る内容や、戦争に対しての実感が湧きました。

各地の体験者、次世代の語り部の模索が、確実に児童・生徒に平和の大切さを伝えている。

地方だより

各支部遺族会で実施された大会等は次の通り。

▼富山県　4月17日
令和8年度富山県忠霊塔合葬戦没者慰霊祭（222人）

九段短歌

作品をお寄せください。

選者　村田　信昌

見てとうさん幼木だった山はいま入道雲を持ち上げて立つ　青森県　田中　恭子

靖國の桜にいつも涙する戦地に散りし御霊を思ふ　福島県　柴田　征子

本殿の雅楽の調べが胸に沁む春季大祭に鎮魂の悲歌　千葉県　石橋　嘉子

兵長の亡父の彼岸の墓参り混沌の世へ桜舞いくる　山梨県　土屋　喜雄

親善の植樹のみどり芽吹きゐむ杳かとなれり巡拝の旅　佐賀県　松尾美津子

うぶ声を聴くかのごとく待ちに待つ靖國桜は春を告げたり　長崎県　安原　恭子

――◇――

季節の移り変わりは早いものですね。境内の桜の若葉が日々色濃くなり始めております。今月のお歌に「うぶ声を聴くかのごとく待ちに待つ靖國桜は春を告げたり」とありました。東京の桜の開花を告げる標本木は能楽堂の横にございますが、開花予想日には報道関係者をはじめ数百人近い参拝者が気象庁の観測官の発表を固唾を飲んで見守ります。その心躍る緊張感をうぶ声を聴くかの如くと表現された作者の感性は秀逸でした。（選者）

愛しきものへ

自愛専一を祈る

陸軍衛生兵長　嵯峨根　茂

昭和十九年十一月二十日
フィリピン・レイテ島タクロバンにて戦死
京都府舞鶴市字浜出身　三十四歳

内地も寒い気候の時季も過ぎ去り、この便りの着く頃には暖い春の訪れる頃と思ひます。其の後は自分も変りなく勤務して居ります故安心して下さい。（中略）

お前様にもこの便りの着く時分には、もう二人になつてゐる事と思ひます。無事双方が丈夫にて経過してゐる事を神かけて祈るのみである。戦局も愈々極に達して来た。内地も相当の苦労が有る事と思ひます。哲雄君も間もなく兵隊さんだな。皆んな出て行つて了ふ事で銃後も大変で有る。大いに両親を始め子供を守つてしつかり頼まねばならない。全く戦地の我々以上の事も有るだらう。（中略）

雄司の大きくなるにつれて又手数の掛る事だらう。あれと出発前撮つた寫真は未だ当方へ届かないぞ。当方から便りが行かなくとも精々そちらからは便りをほしいと思つてゐる。

順司か順子が早く便りがほしいと思ひます。両親にも別に便りしないが宜敷く申して置いて下さい。産後の養生を充分にする様祈ります。先はこれにて。

自愛専一を祈る
亦便りを書く機を得る迄

【令和八年五月靖国神社社頭掲示】
愛しきものへ